



関西支部報

http://www.jackansai.com

地形図はどこへ行く

水谷 透

今年1月、六甲山の狭い山道で下りてくる人に道を譲った。先頭のリーダーらしき人から「すみません」の言葉と一緒に返って来たのが、「30人いますので」。続いて下りてくる誰もが、「ありがとうございます」、「すみません」とは言うものの、誰一人として「お先にどうぞ」とは言わなかった。結局、全員が通り過ぎるまで待つことになった。私が山を登るようになって教えられた「登山の常識」の一つに「登り優先」があった。中高年の山岳会のようにあったが、今の山岳会ではそんなことも教えないのであろうか？

常識と言えば、「登山の三種の神器」があるのだがご存知だろうか？「登山に必要な最低限の持ち物」との意味で、「登山靴、ザック、雨具」だそうである。私はこの言葉を今春初めて知ったが、あまりにも当然すぎて驚いた。登山靴とザックは常識以前のものではないだろうか？ところが、私の知人は、初めての山行きではスニーカーにショルダーバッグだったらいい。まさか雨具は折り畳み傘ではなかったらと思うが、あまりの驚きに聞きそびれてしまった。

ところで、みなさんが考える登山に必要な最低限の持

ち物としての「登山の三種の神器」は何でしょうか？私は「地図、レインウェア、ヘッドランプ」だと思っています。ヘッドランプに代わって、方位磁石、帽子、水、食料なども考えられるかも知れませんが、レインウェアとともに地図は外せないと思っています。

今夏、南アルプスの北岳の山小屋で、雨模様のガスのなか小屋に飛び込んで来た老男性が、「北アルプスは道標が沢山あるのに、南アルプスは少ないね。昨日は2時間も迷ってしまった。」と受付で話していた。これだけハッキリした登山道が付いているのだから、地図を持っていれば2時間も迷うことはないのにといいながら聞いていた。

今春、榛名山の最高峰である掃部ヶ岳を目指しているとき、私を追い越して行った男性が、頂上に着いた私に尋ねてきた。その青年は「この道は途中まで行って引き返したことがあるけど、こっちは道はどこへ行くのですか？」と、頂上から三方向に延びている道の一つを指差した。この頂上はすでに3回目だという彼が、ザックから取り出したのは観光案内所に置いてあるようなパンフレットの地図で、最もポピュラーなルートがイラストで

新年会のご案内

関西支部恒例の新年会を下記のとおり開催いたします。例年とは異なり木曜日開催です。

2017年入会の会員・会友の歓迎会も兼ねます。お誘い合わせのうえご出席ください。

日時 2018年1月25日(木) 18時30分～
会場 大阪梅田「大東洋」 電話06-6312-7525
会費 6,000円

※出欠は同封のハガキに62円切手を貼って、1月13日までに投函ください。

地形図はどこへ行く	水谷 透	1
平成29年度夏季懇談会報告	伊原哲士	2
第28回藤木祭	茂木完治	3
支部山行報告		3
▽県境縦走・明神平〜馬ノ鞍峰▽大野山〜弥十郎ヶ岳▽ロープワーク講習▽八尾山▽県境縦走・馬ノ鞍峰〜川上辻▽位山・六郎洞山▽スメル山▽磯砂山〜高竜寺ヶ岳▽大原野神社〜渡月橋▽大比叡▽今ノ山・妹背山▽県境縦走・日出ヶ岳〜又口▽一徳防山〜紀見峠		12
「本山寺山森林づくりの会」活動報告		14
自己紹介 中山勝也/関戸京子		15
秦康夫さんを偲んで 斧田一陽		16
日本の山岳画集 その3 嶋岡 章		18
会務報告		20
新入会員・会友紹介		21
支部山行計画		23
自然保護行事		23

目次

描かれており、彼が指差した道は載っていなかった。私は登山地図と地形図を見せて説明し、私がこれから向かうコースをも示した。それは彼が途中まで行ったというルートである。

昨秋同じようなことが、西上州の稲含山山頂であった。出会った私と同年輩の男性は、秋畑稲含神社の参拝用のパンフレットで登って来ていた。翌週には友人4人で八ヶ岳に行くという。一緒に下山し、駐車場で地形図や登山地図を示して当日歩いたルートを説明したが、彼は地形図や登山地図の存在さえ知らなかった。無事八ヶ岳に登れたのだろうか、迷わなかったらどうかと気になる。そういえば、日本百名山などではガイドブックで歩いている人もよく見かける。

2万5千分1地形図が発行され始めたころ、それまで使っていた5万分の1地形図の癖が残っていてルートを間違えることがあった。沢を遡行していて水線のある沢の水量を勘違いして間違った沢に入ってしまったたり、藪漕ぎをしていて距離感を勘違いして違う尾根に入り込んだりした。パソコンで印刷した地形図を使っている人もあるが、スケールによる勘違いしないのであろうか。それを避けるため、私は敢えて地形図を買い求めている。

私が地形図を買う理由はもう一つある。それはガイドブックや登山地図に載っていない、自分にとって未知の山を探す楽しみである。そしてその山に思いを馳せ、作業道がありそうな尾根や谷筋の見当をつけ、登れそうなルートを見いだす。さらに、現地へ赴き登る楽しみは何物にも代え難い。

今ではスマートフォンに地形図をダウンロードし、GPSを利用すれば自分の現在位置が分かるようになってきている。GPSを使えば地形図など携行する必要がないのかも知れない。すでに日本版GPSの準天頂軌道衛星「みちびき」が今年3機打ち上げられ、来年から4機体制での運用が始まると精度が向上するらしい。さらに2023年には7機体制となり、山間部の谷間でも利用できるようになるという。そう遠くない将来、スマートフォンに登山ルートを入力しておけば、ルートから1mも逸れると警告してくれるようになるのかも知れない。登山道が整備された山ではGPSとスマートフォンを利用して安全に登山できるようになるだろうが、同時に地図と格闘しながら歩く楽しみは無くなるのであろうか。

平成29年度 夏季懇談会報告

伊原哲士

残暑厳しい平成29(2017)年8月23日(水)、夕方6時からTKP大阪梅田駅前ビジネスセンターで開催された日本山岳会関西支部の夏季懇談会に参加した。

演題は、大阪府山岳連盟創立70周年記念海外登山公募隊の「Team Kongde」と「Team Thyangmoche」の登山報告である。講演者は登山隊長の岩田修一氏(関西雪雪山岳会)。

コンデ・リ(Kongde Ri Shar 6093m)とテンカン・ポチェ(Teng Kang Poche 6499m)は、ネパールヒマラヤのロールワリン山群にある。ベースキャンプが一緒に出来、目指す山は隣同士。近く安く短くと、70周年記念海外登山としては理想的な山だ。

今季のヒマラヤは天候不順で、積雪量も多く、アプローチのモロ・ラ峠(4300m)越えではポーター26名中の17名がボイコット下山し、ベースキャンプ設営が大幅に遅れた。従って、コンデ・リ、テンカン・ポチェ共にアタック期間が短くなった。

コンデ・リは1972年(主峰Lho 6187mは1975年)に初登頂されている。いわゆるトレッキングピークだが、メラ

ピークやアイランドピークのように多く登られている山ではない。技術的な問題か、登山隊は少ない。ロールワリン山群の東端にありナムチェバザールから北面がよく見える。天候不順の中、4月7日に全員登頂した(登山期間：2017年3月18日～4月15日)。

テンカン・ポチェは1980年に英国隊により初登頂されているが、バリエーションとして南稜(仮称)からの登頂を目指した(登山期間：2017年3月18日～4月30日)。アタック前夜から強風が吹き荒れ、C2(6050m)での時間切れ撤退となった。

ネパールヒマラヤも「ガイド登山」の時代になっており、両登山とも自らのルート工作を目指したが、「登らせよう」とガイドが先行しルート工作。フィックスのアイスクリューも日本人なら2本取るところを、1本しか取らない荒っぽさがネパールのガイド登山にはある様に思う、と言う。いずれにしても、全員元気で帰国したことは何よりだった。

懇親会は、今井拓雄氏(関西学院大学山岳会会長)の乾杯の挨拶で始まった。重廣恒夫前支部長は、「コンデ・リ、

テンカン・ポチェ共にエベレスト街道沿いにあり、大阪府山岳連盟70周年記念海外登山としては良い場所を選んだ」と語り、この山域のヒマラヤ登山小史を熱く語る。テンカン・ポチェ登山隊の野木尚子隊員(関西蛍雪山岳会)も参加され挨拶された。真っ黒に日焼けしており、爽やかな印象だった。

帰路、街は暑かったが、心も熱くなった夏季懇談会だった。

参加者

青木昭 新本政子 井関正裕 伊原哲士 今井拓雄 岩崎しのぶ 魚津清和 浦上芳啓 大津陸郎 大塚宏樹 大西康郎 岡田輝子 小黒節郎 斧田一陽 金井健二 金井良碩 清瀬祐司 久保和恵 黒田記代 小寺佳美 重廣恒夫 柴田美生子 嶋岡章 城隆嗣 助川征 高木知子 田中アキエ 辻和雄 中村久住 中村三佳 西尾俊子 野口恒雄 野村珠生 橋本圭之輔 廣田猛夫 馬島有美 水谷透 宗實慶子 宗實二郎 村田かおり 茂木完治 山内幸子 山田健 会員外2 計45名

第28回 藤木祭

茂木完治

恒例の藤木祭が10月1日(日)午後1時より芦屋・高座の滝前広場で約120名の参加を得て開催された。私は日本山岳会に入会して10年以上になるが、今回が初参加であった。藤木九三氏のことは山を始めた1960年代に知っていたが、雲の上の方であり、その後沢登りの世界に入ってしまったのでずっと縁のない方と思っていた。参加する気持ちになったのは、昨年ヒマラヤのナンガマリII峰に登り少し身近な存在に感じるようになったせいかもしれないし、70歳を越えて人に興味を持つようになったせいかもしれない。

登山道に沿って幟を立てて準備をするうちに人が集まり始め、記念ハイキングの方々が加わると一気に膨れ上

がって、登山道を埋め尽くした。RCC創設メンバー中村勝郎氏の姪・川原真由美氏も飛び入りで参加いただいた。

兵庫県山岳連盟森川列氏の開会宣言で始まった。中西研一兵庫山岳連盟会長、山中健芦屋市長の挨拶が続いたあと、武田義明神戸大学名誉教授による「六甲山の植生について」の話、藤木高嶺氏の少年時代にロックガーデンから学校へ通った思い出のご披露があった。アシヤユースコーラスによる山の歌に楽しく唱和し、金井関西支部長の挨拶をもって無事終了した。

帰り際に振り返れば、藤木九三氏のレリーフも長い年月ですっかり色がくすみ、自然に溶け込んだ姿で見送ってくれていた。

支部山行報告

支部山行17-14 4000山グランプリ
赤堂山(1059m)から多子津山(1311m)敗退
重廣恒夫

7月1日(土)雨

昨夜のうちに金沢に入り、6時に金沢駅からタクシーで刀利ダムに向かう。この時点で「大雨洪水警報」が発令されていた。湯涌温泉側のゲートが閉まっている可能性があるため、福光経由で県道10号線から日本3大酷道のひとつと評される県道54号線に入る。2000年に大門山を登った時はこの道からブナオ峠に行った記憶があるが、随分前から通り抜け不能となっている。

タクシーは中河内までの予定であったが、なんとか走りできそうなので標高520mの沢の手前まで走ってもら

う。この頃から雨脚が強くなり、月ヶ原山に向かう新しい道を登るが、雷も鳴りだして打たせ湯みたいな豪雨となったのでP865で登山の続行を断念した。下山路は放水路のようになり、道路に下り立っても水が流れていた。周辺の沢筋からは茶色の濁流が音を上げ、タクシーを下車した沢筋の道路は流失していた。中河内の作業小屋まで下り、テントを張った。雨脚は衰えることなく、屋根からカーテンのように流れ落ちる。

ボックスの中には、月ヶ原山から多子津山の道を作られていた南砺市在住の武蔵栄一さんの捜索(昨年9月12日に月ヶ原山付近で行方不明、以来今年に入っても捜索が続けられている)メモが入っていた。

7月2日(日)

朝方には雨脚も少し弱くなり月ヶ原山だけでも登ろう

かと考えたが、下山路に沢筋の通過があり涉れない可能性があるため、登る事を諦めて中河内から刀利ダムまで歩きタクシーと合流して湯涌温泉に向かった。

【コースタイム】

1日 タクシー終点07:31～08:10新道取付～09:41P865～11:33取付～11:35中下小屋分校跡～13:17中河内作業小屋
 2日 中河内09:00～09:18瀧谷隧道～10:07親水公園(ダムに沈んだ下刀利・上刀利・瀧谷集落懐郷の碑)～10:32刀利ダム

【参加者】

重廣恒夫 立野里織 黒田記代 計3名



馬ノ鞍峰三角点 写真提供：重廣恒夫

**支部山行17-15 関西支部県境縦走51
 明神平～池木屋山～馬ノ鞍峰**

村田かおり

7月15日(土)曇時々晴

早朝、ひんやりとした心地良い風が吹く大又林道駐車場を出発。長い縦走の1日が始まった。明神平までは比較的歩きやすい登山道だが、身体が重く汗が噴き出す。明神平から三ツ塚分岐を経て笹ヶ峰、千石山(1381m三等三角点・蓮1)までは道も良く気持ちのいい稜線歩きで体調も回復した。150m程下降すると細い尾根となる。赤嵩山までは1時間半程で到着。石楠花を愛でながらしばしの休憩を取る。続く霜降山から池木屋山(1396m二等三角点・中奥)まではゆるやかな稜線。ホウキガ峰を過ぎP1258までは途中の細い尾根は念のためにアンザイレンして通過する。疲労がピークを迎える頃、やっと本日の露営場所に到着した。今日は約13時間の行動であった。

7月16日(日)晴

爽やかな朝を迎え水場のコルを出発。ヒメシャラの林を抜け細い尾根を慎重に進む。弥次平峰(1274m三等三角点・罌粟谷)を経てP1166手前より再度細い尾根筋となりアンザイレンをして下降。馬ノ鞍峰(1178m三等三角点・馬倉)から県境稜線を離れ、P1073から下った稜線を外れた下降路はカクシ平まで悪路であった。沢沿いの倒木を幾度となく越え、悪戦苦闘の末にやっと三之公行宮趾に到着。このような場所に隠れ住んでいたことが俄かには信じ難い場所である。冷たい沢で顔を冷やし明神滝まで一気に下る。三之公林道終点に着く頃には先日から疲労の蓄積もあり、足はがくがくであった。最後に蛭2匹のおまけも貰い今回の行程を終えた。

【コースタイム】

15日 大又林道駐車場04:40～07:13明神平～08:40明神岳

～12:43赤嵩山～15:35池木屋山～16:38ホウキガ峰～18:01水場のコル

16日 水場のコル04:45～06:09弥次平峰～08:12霧ノ平～10:05馬ノ鞍峰～12:01カクシ平～13:41三之公谷林道終点

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 村田かおり 山内幸子 計4名

**支部山行17-16 しっかり歩こう
 柏原口～大野山～弥十郎ヶ岳**

山内幸子

7月22日(土)晴

暑い中の山行で、しかも朝一番に1時間余にわたる計画外のアルバイトもあり、結構ハードな山行になった。山王大権現社から大野山へのルートは分かりやすく、大野山からの展望を楽しむ。竹谷林道から展望が見られるようになっていた弥十郎ヶ岳に登り、吊尾根を通った。途中から竹谷林道登山口に戻るルートを取り自動車道歩きを割愛した。「しっかり歩こう」らしく、行き帰りともに道のないルートも歩き変化にとんだ山行になった。



2017/07/22 15:24 弥十郎ヶ岳頂上にて 写真撮影：山内幸子

【コースタイム】

柏原口08:45～09:45 P 452～10:10 柏原口～10:20 山王大権現社～11:35 大野山～12:45 丹波篠山溪谷の森公園～13:45 竹谷林道登山口～14:46 P 689～15:00 弥十郎ヶ岳～16:00 P 665～17:05 竹谷林道登山口～17:45 篠山溪谷の森公園

【参加者】

山内幸子 関戸京子 戸島泰三郎 久保和恵 計4名

**支部山行17-17
ロープワーク講習**

2017年7月23日(日) 10:00～13:00

場 所：支部ルーム

講 師：黒田記代

「初心者のためのロープワーク講習」2回目を実施。参加者の知りたい事を中心に講習。ロープを束ねるコツを伝授し、基本となるロープの結び方を実地練習した。

(黒田記代)

【参加者】

新本政子 魚津清和 高木知子 辻和雄 登山教室受講者3 計7名

**支部山行17-18 4000山グランプリ
八尾山**

重廣恒夫

7月29日(土)雨

早朝に三ノ宮を出発し、新幹線・特急ワイドビューひだ1号を乗り継いで下呂駅に到着。タクシーで茂谷口に向かい、国道41号線の七里橋を過ぎた出合で降りる。茂谷の右岸を山ノ神の裏手から登り、取水口を過ぎた場所から沢に下りたが、昨日来の雨で増水し水温も低い。早々に遡行を諦め、右岸沿いに道形の残る古い巡視路を辿る。

最初は沢との標高差もあり流れ落ちる滝の水勢に圧倒された。茂谷1番の滝を高巻いた後は沢床に下り、ほどなく荒れた林道の終点に出た。途中、東側の大平山(855.2m)に続いている林道の分岐から、西側の林道を歩くとすぐに八尾大権現の古い石柱があった。さらに進むと林道が二手に分かれており左の道を辿るが、途中で南に下り始めたので、途中の沢まで戻って取水した後、八尾山から北東に下っている尾根に取り付いた。

尾根筋には薄い道形が残っており、急登に喘ぎながら30分ほどで北からの林道の終点に出た。八尾大権現登山口と書かれた道標から1時間ほどミヤコザサの低い藪を



八尾山山頂 写真提供：重廣恒夫

登ると唐突に頂上
が現れた。稜線伝
いに西の三角点
(1101m)を踏んで
柿坂峠から来てい
る登山道を下り、
鉄塔120号の下で
テントを張った。
雨具を脱ぐと体中
に蛭が這っていた。

7月30日(日)雨

雨の山には誰も
登ってこない。4
つの鉄塔を越える

アップダウンを繰り返して2時間半ほどで柿坂峠に降り立った。峠から三角点「板山」を踏んだ後、林道を下呂駅に向けて下る。単調な林道下りであるが、このまま辿ると北上し下呂駅からかなり北に離れた上上田の集落に下りることが分かったので、途中から通り抜け不可の看板の立つ廃道に入った。300m程進むと崩壊地が道を寸断していた。脆い泥壁の通過となるが、念のためロープを使って通過する。今回の山行で一番緊張した箇所であった。その後は長閑な林道を観光客で賑わう下呂温泉に下った。

【コースタイム】

29日 茂谷出合10:00～12:16 林道終点～12:55 八尾大権現道標～13:20 尾根取付～14:05 八尾大権現登山口～15:05 八尾山～15:36 鉄塔120号下

30日 鉄塔下05:25～07:49 柿坂峠～08:17 板山～08:31 柿坂峠～09:11 崩壊地～10:37 下呂温泉公民館

【参加者】

重廣恒夫 会員外1 計2名

**支部山行17-19 関西支部県境縦走52
馬ノ鞍峰～山ノ神ノ頭～添谷山～川上辻
野村珠生**

8月11日(金)晴

大和上市駅に集合。タクシーで前回下山した三之公林道終点まで入る。山の神祠前で準備体操。先月県境離脱した馬ノ鞍峰に向かってスタート、明神谷に沿って標高を上げていく。明神滝、二ノ滝辺りでは一歩踏み出すごとに山ヒルが立ち上がり、気が付けばスパッツの上や袖にヒルが張り付いていた。カクシ平あたりから雲行きが怪しくなり暫くすると本格的な雨となった。稜線合流点

から馬ノ鞍峰にかけて高野槇、シャクナゲが茂っている。馬ノ鞍峰から先は、広く歩きやすい処と痩せ尾根が交互に現れ、歩きにくいと暑さと湿気が体力を奪う。当初予定していた地池越の手前でテントを張った。

8月12日(土)晴

5時に出発するが昨日ほど蒸し暑くなく歩きやすい。当初予定のテントサイト地池越までは小一時間ほどかかった。県境は台高山脈縦走路にあたるので基本的に登山道はあるものの廃れている。関大や天理大のワングルの標識はあるものの昭和58年と古く、割れていたりする。山ノ神ノ頭を過ぎて相変わらず50mから100mのアップダウンを繰り返して、ブナノ平には10時前に着いた。20mほど下に伏流水が湧いているところがあり、給水と休憩をとる。その先もアップダウンの繰り返しが延々と続き、それがジャブのように体力を消耗する。予定より遅れがちとなり、杉又高の分岐手前で水場を見つけてテントを張った。

8月13日(日)晴

5時過ぎに出発する。昨夜のテントサイトに予定していた引水サコを通過。さらに御座嶺を過ぎ、三角点のある添谷山(1250m)に到着した。時間オーバーで大台辻からは一般道の筏場道を取ることにするが大台ヶ原までは4時間半の登りとなる。通行止めの標識もあるが登山道はしっかりしている。安心橋手前の金明水では乾いた喉を潤す。川上辻までの間に4か所の崩落地があり、念のためロープを結んだ。川上辻でドライブウェイに出るがバスには間に合わずタクシーを呼ぶ。

【コースタイム】

11日 三之公林道終点10:19~11:04明神滝分岐~12:28カクシ平~13:50稜線合流点~14:29P 1073~15:23馬ノ鞍峰~16:20P 1164~18:26テントサイト

12日 テントサイト05:07~05:45地池越~06:49父ヶ越~



染谷山頂上にて 写真提供：重廣恒夫

07:39山ノ神ノ頭~08:51湯谷ノ頭~09:47P 1125~11:16ブナノ平~13:20父ヶ谷の高~15:31二つ目のP 1094~16:30テントサイト

13日 テントサイト05:19~05:40杉又高~06:27振り子辻~08:26引水サコ~09:46御座嶺~10:35添谷山~13:00大台辻~14:50金明水~15:45安心橋~17:27川上辻

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 野村珠生

計3名

支部山行17-20 4000山グランプリ

飛騨 位山・船山・高屹山・六郎洞山

辻 和雄

8月26日(土)晴

西梅田6時半に集合し、辻車にて飛騨高山に向かう。当初予定では飛騨小坂から沢通しに位山を登る予定だったが、シャワークライムの連続と遡行後の藪漕ぎが長いので予定を変更し、一般登山道からの登山となった。

登山口は標高1320mにあり、山頂までの標高差は200m程しかない。トイレがあり、車は10台程駐車可能。山頂への途中に巨石群があり、各岩に付けられた名前が面白い。大陸の高気圧が張り出し標高以上に涼しい。静かな山道を歩く。天の岩戸を過ぎ、川上岳への天空遊歩道分岐を過ぎ、白山の見える展望広場を過ぎて1時間程で位山の山頂(1529m)に着く。山頂は三等三角点で残念ながら木々に囲まれ展望はない。昼食を取った後、御嶽や乗鞍のビュースポットがある周遊道を辿り、途中で元来た道に入り登山口に戻る。

午後から位山峠に向かう。西側から船山に上る予定だったが、位山峠へは道路工事で閉鎖されていたため、東側のスキー場からの道に変更する。道は舗装されてそのまま山頂近くまで行けるが、途中伐採した丸太を積み込むトラックに行く手を阻まれ、車を降り船山登山道を徒歩で頂上へ向かう。頂上近くに展望台があり檜・穂高や乗鞍・御嶽が一望できた。頂上は山名の船の由来通り樹木の間を平らな道が続き、1時間少々で船山の二等三角点1479mに到着する。周りは、複数の通信設備と建物が建っており風情はない。下りは舗装された林道を車に戻る。

コンビニで夕食と宴会の食材を調達し、車で幕営予定地の高屹山登山口に向かうが、登山口への道が荒れており、途中で幕営する。

8月27日(日)晴

5時半頃に幕営地を出発し、10分程で登山口に到着。ゴジラの背を過ぎる辺りまでは飛騨側は雲に覆われ展望



位山頂上にて 写真提供：重廣恒夫

が良くなかったが、ふれあい広場に到着頃には雲は去り白山、位山・船山、笠ヶ岳、槍・穂高、乗鞍、御嶽が一望できる。1時間40分で高屹山の三等三角点1303mに到着。ここも眺望は良い。下山は途中まで西尾根を下り登山口に戻る。

六郎洞山へは、下呂の方へ大きく南下し、鈴蘭高原の別荘地・ゴルフ場を過ぎたスキー場跡の先にある登山口に向かう。登山道は笹が密生し藪漕ぎとなるので、通常は積雪期に登られている。登山口の横で伐採をしていた業者の方から、最近別荘地にクマが出たので注意をするよう声を掛けられる。入山後暫くは、笹が刈られた道と笹の密生した道が交互に現れるが、やがて藪漕ぎの道となる。登山口から2時間でやっと山頂(1479m)の二等三角点に到着する。下りは元来た道を辿るが、最後に林道に出ると入山口から少し東に寄った場所となった。

帰りの車のコースは、林道を北側へ抜け、41号線に出て「臥龍の郷」温泉にて汗を流した後、大阪へ向かった。

【コースタイム】

26日 ダナ平林道登山口11:33~12:27位山~13:14登山口=船山駐車地14:44~15:59船山山頂~16:56駐車地

27日 幕営地05:16~05:47登山口~07:29高屹山~08:25登山口~08:37駐車地=登山口10:01~12:02六郎洞山~13:40登山口

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 村田かおり 辻和雄 計4名

支部山行17-21 海外トレッキング
 ジャワ島最高峰 スメル山・ブロモ山・
 イジェン山
 重廣恒夫

8月30日(水)晴

関空を昼過ぎに出発。ジャカルタを經由してジャワ島第2の都市スラバヤ空港に降り立ち、専用車でホテルに23時前の到着。

8月31日(木)晴

早朝にスラバヤを出発。途中の病院で登山申請に必要な身長・体重・血圧を測定した後、ランドクルーザーに乗り換えて細い尾根筋の道をラヌパニ村(2200m)に向かった。昼食後、湖畔のキャンプ地ラヌクンボロ(2400m)まで歩く。多くの登山者を迎える道端には3軒の茶店もある。途中、噴煙を上げるスメル山の山頂が見えた。

9月1日(金)晴

8時前にキャンプ地を出発。多くの登山者とすれ違う。日本と違うところは、ほとんどが若い男女であることだ。数年前に上映されたスメル山を舞台にした映画の影響という。それにしても赤道直下の山は暑い。砂礫地のキャンプ地カリマティ(2700m)には水が無い。1時間ほどかけて水場を往復する。眼前のスメル山は20分毎に噴煙を上げている。

9月2日(土)晴

未明にキャンプ地出発。アルチョポド(2900m)を越えて、富士山の砂走りを更に急にした砂礫の斜面を喘ぎながら登る。途中休憩することなく1000mの標高差を上りきると広い大地の頂上(3676m)に着いた。大きなインドネシア国旗の下で記念写真を撮る。眼前で大きな音を立てて、噴石も含んだ噴煙が上がる。長居は無用と落ちるように砂礫の斜面を下る。登り5時間半、下り1時間半の行程であった。カリマティで小休止の後、ラヌクンボロに下った。

9月3日(日)晴

ラヌクンボロからラヌパニに下り、車で“砂の海”と呼ばれるテンガル・カルデラを通過してチェモロラワン(2217m)に移動。



イジェン山火口にて 写真提供：重廣恒夫

9月4日(月)晴

未明、車でブナカンジャン展望台(2700m)へ。展望台から日の出とプロモ山の絶景を満喫。車で移動して噴煙を上げるプロモ山(2329m)の火口を往復。その後、車で8時間かけてイジェン山麓のリゾートホテルに移動。

9月5日(火)晴

深夜、車でイジェン山登山口(1900m)に移動。ヘッドランプをつけ2時間ほどで頂上(2300m)へ。ガスマスクをつけて硫黄ガスの噴出す火口に下り、漆黒の闇に青い炎が揺れる神秘的な光景を楽しんだ。

その後、ジャワ島東端のクタパン港からバリ島に渡り、デンパサール空港から7日帰国した。

【参加者】

茂木完治 重廣恒夫 会員外2 計4名

**支部山行17-22 4000山グランプリ
磯砂山～高竜寺ヶ岳**

中村三佳

丹後半島の眺望が広がる山に登る。4000山グランプリ初参加は、日本最古の天女の羽衣伝説のある磯砂山と京丹後市最高峰、高竜寺ヶ岳縦走だ。

9月9日(土)晴

特急こうのとりで豊岡へ、丹鉄宮豊線に乗り換えて峰山駅に到着した。タクシーで磯砂山登山口に向かう。準備を整えて出発するとすぐに急登の階段となった。山頂まで1,010段あるらしい。一段一段登りながら、天女が降り立った場所へと近づいていく。1時間ほどで山頂に到着した。360度の大展望が広がる。天橋立がすぐそこに見え、その先は日本海だ。天女は絶景がお好きらしい。双眼鏡が設置されていたが、覗く必要がないくらいであった。下り始めるとすぐに樹林帯となり、生い茂った木々の中に天女が水浴びをしたという女池があった。さぞかし神秘的だろうと思いきや、ただの水溜まりで、伝説の魔法も解けてしまったらしい。県境尾根に合流する。やがて鬱蒼と茂る大成峠へ到着した。本日の幕営地だ。テントを2張設営後レストラン大成峠亭がオープン。久保シェフによる炙っためざしと焼き鳥缶。新本ソムリエが焼酎を勧めて下さる。重廣シェフのハーブチキンと黒田シェフの気まぐれサラダ・生ハムとアボガド添えに感激した。

9月10日(日)晴

3時半に起床、大成峠から急斜面に登る。朝一番の登りはきつい。今日は高竜寺ヶ岳まで県境尾根を辿って歩



磯砂山山頂 写真提供：重廣恒夫

く。汗ばんだ体に冷たい風が心地よい。あたりが次第に白みはじめ、木々の間から御来光を仰いだ。磯砂山山頂を後にしてからずっと樹林の中を歩く。やわらかい光が差し込む中、足元にはホトトギスが咲いていた。たんたんトンネル上まで来ると見上げれば青い空となり、ほどなく高竜寺ヶ岳山頂に到着。磯砂山に負けない大展望。昨日とは違う角度から天橋立や周りの山々が見えた。思いつきり絶景を吸い込んで、しばしまったり。名残惜しいが下山にかかる。北尾根の急斜面をアンザイレンして慎重に下り、無事、国道482号線合流地点に到着した。そのまま車道に沿ってしばらく歩き、尉ヶ畑口でタクシーを呼んで久美浜駅へと向かった。4000グランプリ初参加だったが、天女も大歓迎してくれているような天気に恵まれた楽しい山行だった。

【コースタイム】

9日 磯砂山登山口12:49～13:37磯砂山～14:00女池分岐～14:26県境稜線合流点～14:44 P 562～15:28 P 546～15:53大成峠

10日 大成峠04:59～06:23三分界～07:08坂野分岐～08:31 P 523～09:08道路合流点～09:39尉ヶ畑峠～11:08高竜寺ヶ岳～12:47林道峠谷線終点～13:16林道峠谷線始点～13:54尉ヶ畑集落

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 久保和恵 黒田記代 柴田美生子
馬島有美 中村三佳 計7名

支部山行17-23 県境縦走53

9月16日(金)～18日(月)実施予定は、台風18号接近による大雨予想のため中止。10月7日～9日に順延。

**支部山行17-24 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く4
大原野神社から渡月橋**

横山規江

9月21日(木)晴

参加者にとって待ちに待ったゆるやか山行の日だ。というのも、例年7・8月は夏休みである。久しぶりにお会いする方も多く、集合の東向日駅前バスを待ちながら皆さんの会話は弾み、秋空の下、笑顔があふれていた。南春日町バス停で下車。本日は平地歩きなので、近くの広場でいつもより軽目の準備体操。そして皆さんのザックも靴も軽やかだ。複雑な住宅街など下見した魚津サブリーダーが、本日は先頭を任された。

大原野神社境内の散策、花の寺(勝持寺)へと。田の黄金色と彼岸花の真っ赤な色のコントラストを楽しんだり、無人の百円の野菜売り場に無意識に引き寄せられて、あれこれと買い、気が付くと、列ははるか前方に。

町中に入り京都縦貫道高架下をくぐって行くと、とても立派な大きな家々が立ち並ぶ丘陵地域。見とれながら歩いていると、誰かの声が出た。ここ桂坂は高級住宅地でバブルがはじける前に開発されたそうだ。その先の桂坂公園で昼食をとった。

町歩きから一転して、長い竹林の中。竹のトンネルを歩いているようで清々しい気分が進んで行った。更に歩いて竹の寺(地蔵院)があり、「一休禅師修養の寺」の看板があった。立ち止まり、気が引き締まるような、ゆったりするような。「一休み〜一休み!」私達の人生においても大切なことかなと、ふと思った。鈴虫寺には寄らず。以前来た時もパワースポットとかで、人が多すぎて入れなかったのが少し残念だった。最後に、重要文化財に指定されている松尾大社の広い境内を散策。祭神は古くから日本第一酒造神として信仰されている。壁一面、五段



鈴虫寺に差し掛かる 写真提供：魚津清和

にも並べられた様々な銘柄の酒樽は見事だった。

桂川沿いの小道を気持ち良く、時折サイクリング車とすれ違いながら、阪急嵐山駅へと向かい、解散した。

【コースタイム】

南春日町バス停09:48~09:57大原野神社~10:17花の寺~11:11沓掛~11:48桂坂公園12:21~13:57松尾大社~15:12阪急嵐山駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 新本政子 井関正裕
浦上芳啓 岡田輝子 嶋岡章 助川征 戸島泰三郎 中
島隆 中山勝也 橋本圭之輔 廣瀬健三 前田正彰 松
波幹夫 松村文子 松村竹次郎 山下政一 秋月修次
浅田博三 岐部明弘 黒岩敦子 小林三喜男 田中アキ
エ 中田栄 播戸日出生 横山規江 (京滋)上田典子

計29名

支部山行17-25 しっかり歩こう

大尾山~水井山~横高山~大比叡~雲母坂
関戸京子

9月24日(日)晴

暑さ寒さも彼岸まで。この日はそれを実感しました。今回の山行の出発点大原バス停に着いた時は太陽が眩しく、さぞ暑い1日になると覚悟しました。実際に歩きはじめると来迎院に向かう道のそばを涼やかに川の水が流れ京都の風情にあふれており、思ったほど暑くなく、予定を少しだけ遅れて修学院駅に辿りつきました。気持ちの良い汗をかいた山行でした。

この日は昼食に30分、その後20分ほど休憩を取りましたが、その他は元気に歩き通しました。予想外の休憩タイムとなったのは私が蜂に刺された時の小休止です。来迎院を通り過ぎ、川を渡り、水の流れに沿って、音無滝を右に見ながら通過したあたり、水ゴケのむした岩をつかんだ処、チクッと虫に刺された感触がありました。食われた跡からはどうも蜂のようで痛みも出てきました。幸いなことに久保さんが毒を吸い取る器具を持っておられ、それで手当してもらい、腫れてくることもなく、とても助かりました。この間、10分あまり、歩き始めたばかりの皆さんを足止めしてしまいました。今年は天候のせいで蜂があちこちで繁殖しているということです。虫の毒を吸い取る機器は必需品と思いました。

大尾山・童髯山(681m二等三角点・大原村)に着いた時は、汗はかいたものの、林の中で日光に当たらなかったせいか、高度のせいもあってか涼しく、爽快でした。



大比叡頂上にて 写真撮影：山内幸子

昼食は朝が早かったこともあり、仰木峠手前の琵琶湖が望める伐採地跡で取りました。この日のハイライト、大比叡(848m一等三角点・比叡山)には、全員元気に到着しました。

川沿いや林の中の尾根道が多かった今回の山行でしたが、所どころ思いがけずに、琵琶湖や京都北山が見渡せる展望もあり満足でした。また、東海自然歩道や京都一周トレイルの一部を歩いたのでときには人通りも多い場所もありましたが、あえてトレイルから外れたコースを少しだけ試してみたりした楽しい山行でした。

【コースタイム】

来迎院09:00～10:30大尾山～11:55仰木峠～12:47水井山～13:04横高山～13:30玉体杉～14:30稜線・林道合流点～15:27大比叡～17:12きらら坂入口～17:35修学院駅

【参加者】

山内幸子 新本政子 久保和恵 関戸京子 戸島泰三郎
野口恒雄 水谷透 黒岩敦子 計8名

支部山行17-26 4000山グランプリ 今ノ山、妹背山

小林京子

9月30日(土)晴

四国支部の三村さん運転のマイクロバスで夜明け前に徳島を発った。高速道路は四万十町まで、その後は国道56号を走り、黒潮町の道の駅で松村ご夫妻と合流した。徳島から5時間弱、やっと今ノ山の林道ゲートに着いた。

準備体操後、ゲート脇をすり抜け舗装された林道を歩いた。今ノ山登山口の道標からは、荒れてはいるが遊歩道が付けられていた。明るい自然林の中を益野川源流部に沿って少し歩く。ジグザグに急斜面を登り、尾根に乗ったところで小休止した。大きなアカガシの木があった。

ゆったりした尾根をひと登りすると、今ノ山の頂上(864.6m)に着いた。立派な一等三角点があるが、林の中で展望はなかった。記念撮影後、最高点の東峰に向かった。途中、運輸省大阪航空局の白亜のレーダー施設があった。今日はもう一山残っているので、急いで山を下る。

宿毛に向かう途中で慌ただしく昼食を済ませ、定期船に間に合うよう片島港へ急いだ。妹背山のある沖の島は宿毛の南西25kmに位置し、渡船で1時間かかる。かつては、北は伊予宇和島領、南は土佐領に分かれ、行き来は厳しく制限されていたようだ。今回は北の母島港から妹背山に登り、南の弘瀬港に下る。平成の世では御咎めなしに通行できる。

登山隊は母島港で下船し、石積み急斜面に建つ家々の間を登って行った。花崗岩の小さな島なのに、川が流れている。鬱蒼とした照葉樹の森に降り注ぐ雨が、妹背山に豊かな水を蓄えているのだろうか。草が伸び放題の集落連絡道を伝い、小学校の近くから登山道に入った。妹背山頂上近くに山伏神社があるので、参拝道として使われていたようで、踏み跡はしっかりとしていた。夕方近くになっていたが、照葉樹の林は思いのほか明るかった。山頂(403.8m)は木々が伐採され、眼下に弘瀬港が見えた。立入り禁止の壊れかけた展望台があり、第二次大戦中にはレーダー基地もあったそうで、名残の石積みがあった。一等三角点を囲んで記念撮影後、急いで下山した。

石仏群が残る仏ヶ丘を横目に見て、三浦一族の墓に手を合わせ、焦る気持ちを押さえながら足元の悪い山路を進んだ。ツタが絡み、石に躓きそうになりながら、慎重に下って行った。林の中から西の空が夕焼けに染まるのが見えた。その時不思議な光景が目の前に広がった。林の中にオレンジ色の光が点在していた。ホタルかと思ったが、季節も色も異なるし、何が起きているのか直ぐには分からなかった。照葉樹の葉が夕日を反射し、輝い



妹背山(左)を見ながら沖ノ島を後にする 写真提供：重廣恒夫

ていたのだった。夕暮れの照葉樹林でなければ見られない感動的な一瞬のドラマだった。ヘッドランプを点け、薄暗くなった山を下りると、港の灯りが見えた。シカ除けのゲートを通り、弘瀬港近くの宿に着いた。その夜はクエやカツオの刺身、煮付け、島の特産品だという落花生の搗り流し汁に舌鼓を打ち、ビールと日本酒で乾杯した。

翌日は朝食後、宿の女将さんと可愛いお嫁さんに見送られて、弘瀬港を発った。船の上から眺める沖の島は、花崗岩の断崖絶壁に囲まれた要塞のような島だった。妹背山は400m余りの山だけれど、海中からの標高は？と考えると、感慨深かった。宿毛に着いてからは、三村さんお薦めのコースで、竜串海岸や足摺岬を観光した。昼食には清水鯖の刺身をいただき、高知の海の幸を堪能した。

四国の右上が徳島で、左下が宿毛だ。徳島からは縁遠い山々だったが、4000山登山という好機を得てやっと登頂できた。

【コースタイム】

今ノ山林道ゲート10:26～10:52尾根～11:17今ノ山～11:30東峰～12:10ゲート＝14:15宿毛港14:30(渡船)母島港15:20～15:59妹背山登山口～16:38廃屋～16:55妹背山～17:22仏ヶ岡～18:36弘瀬

【参加者】

重廣恒夫 橋本圭之輔 野村珠生 松村文子 岡田輝子
瀧由喜子 小林京子 (四国)岡本澄子 仁田祐二 渡辺
潔 森山宏昭 計11名
(サポート)三村泰三・松村竹次郎

支部山行17-27 県境縦走53

**日出ヶ岳～堂倉山～コブシ嶺～木組峠～
柳ノ谷～又口**

新本政子

尾鷲道を歩きたいと思っていた。柳ノ谷の下降や2泊のテント泊に参加を躊躇したが、50年を経て念願の山旅を味わえた。

10月7日(土)曇

小黑さんの車のおかげで予定より早く大台ヶ原に到着した。秋の気配漂う日出ヶ岳から尾鷲辻までは、色づき始めた紅葉を愛でながらの散策路。山頂の東屋で昼食を摂った後、堂倉山を目指して尾鷲道に入る。日帰りの小黑さんとは堂倉山で別れ、地倉山からコブシ嶺へと先を急いだ。

途中白サコから緩やかに下った所にトロッコ道跡あり。大台の原生林を切り出した林業華やかな頃の名残と



柳ノ谷に架かる壊れた吊り橋 写真提供：重廣恒夫

か。尾鷲湾から吹き上げる湿った風のせい霧の中を南へと稜線を下る。一本木を経て、崩落箇所は尾根に迂回して木組峠に到達しテントを張った。

10月8日(日)晴

尾鷲の海に昇る日の出を拝み、新木組峠で小休止。「木組峠」の道標には、手書きで「新」の字が書き加えられている。消え残る月や見事な雲海に見とれながらの清々しい歩き出しであったが、アンザイレンして委細谷ノ頭から竜の辻に至り索道支柱跡を見て愈々慎重に下る。県境の通るハチヤ川西の尾根を崩れた石積みの道や崩落箇所を巻きながらジグザグに下ること4時間。柳ノ谷渡渉点の河原にテント設営した。雨が降らないことを願い、轟々と流れる音を聴きながら早々とテントに潜り込む。

10月9日(月)小雨後晴

テントをたたき音に目覚めたが、明るくなるのを待って出発。対岸への渡渉は難無く飛び石伝いに渡り終え、朽ちた吊り橋のすぐ前の斜面をよじ登り川に沿って柳ノ谷山林道終点へと下った。山ノ神に手を合わせ、今回の縦走路を確認して又口橋を渡り山林事務所前で身づくろいをする。重廣リーダーは数ヶ所の蛭被害。尾鷲駅へ向かう途中電話を借りる為に立ち寄った清掃工場で、ごみを捨てて来た帰りの車に乗せて貰えるという幸運？があり、11時には尾鷲漁港の干物とお寿司を買い込んで松阪行きバスに乗ることが出来た。

【コースタイム】

7日 大台ヶ原駐車場10:26～11:22日出ヶ岳～12:25尾鷲辻～13:19堂倉山～15:07雷峠～15:53コブシ嶺～17:23木組峠
8日 テントサイト05:35～06:24新木組峠～08:50竜の辻～10:41柳ノ谷下降始点～11:14転換点～14:53テントサイト
9日 渡渉点06:19～08:02山ノ神～08:07又口山林事務所～09:21尾鷲市清掃工場

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 新本政子 (7日のみ) 小黒節郎
7日4名 8-9日3名

支部山行17-28 四国支部交流山行

10月7日(土)～9日(月)実施予定は、参加申込みが無かったため中止(個人山行として実施)

支部山行17-29 しっかり歩こう
一徳防山から岩湧山・紀見峠

松仲史朗

10月15日(日)雨

河内長野駅前に集合し、滝畑ダム行バスに乗り中日野で下車。溜池のほとりの道標「一徳防山へ」が登山口だ。木に囲まれ周りが薄暗くなっていく道で山栗やシロオニタケを見つけた。河内長野市テクルート of 古い標識がある植林と自然林の中を歩く。旗倉山東鞍部からは安定した稜線だ。木々の開けた場所に出ると霞かかる河内長野市街の景色が遠くに見える。最初の鉄塔を通過すると道沿いに大きな岩があり、一徳防山(541m)の西側は崖が落ち込む狭い山頂だ。しばらく進むと一徳防山三角点峰(544.1m)に到着。霧の中で周りの山々の雄姿は見ることができない。雨が降り始めたので昼食を早々に済ませ、編笠ノコルの分岐を通過し、編笠山へ。山頂には展望はない。滝畑林道に到着すると更に雨は強く降り続けるので日没時間も考慮に入れて帰路を相談。岩湧山・三石山縦走を断念し、岩湧山・根古峰縦走に変更。滝畑林道から「きゅうざかの道」の登山口まで自動車道を歩く。ここからは急坂の丸太階段をダイヤモンドトレールとの分岐点になる岩湧山東峰まで登る。カヤトをたどる岩湧山



一徳防山頂上 写真提供：山内幸子

頂(897.1m)は、あいにくの雨で河内平野や金剛山・葛城山の眺めを見渡せなく残念だった。日没前、紀見峠駅に到着し、本日の山行を終えた。

【コースタイム】

中日野バス停09:23～10:34旗倉山東鞍部～11:27一徳防山～11:41一徳防山三角点峰12:01～12:52編笠山～13:05滝畑林道～13:42きゅうざかの道～14:35岩湧山東峰～14:55岩湧山～15:51根古峰～16:50紀見峠駅

【参加者】

山内幸子 辻和雄 小黒節郎 関戸京子 松仲史朗
計5名

支部山行17-30 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く5

10月19日(木)実施予定は、台風21号接近の影響による悪天予想のため中止

支部山行17-31 野外料理に挑戦

10月22日(日)実施予定は、台風21号襲来のため中止

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2017年6月～9月)

武田壽夫

2017(平成29)年6月1日(木) 9:30～15:30

天候 晴 気温(12時天狗杉尾根20℃)

エリア：「44林班ろ」「44林班い」

内容：ナラ枯れ対策、登山道保全、苗木生育調査、林床整備

昨晚の雷雨で山の様子が心配だったが、落ち葉が沢山重なっていた程度で少し安堵。今日は療養中の秦さんのご家族も体験参加。

作業は、①前回の「44林班い」の整備区域を広げること、②水切り溝の修復と昨年施したナラ枯れ対策や植樹の経過観察。対策に必要な古タオルは寺のお手水の溢水で予め湿らせておく。「ナラ枯れ」は対策した木々が活着しているかどうか、樹上を見上げて繁り具合をチェック。見えづらいが、それでも大部分が一応健康のようで、葉が生え出さない2本のタオル巻を更新、新発見の1本にはラップを巻きつけた。植樹は「ヤマザクラ」が抜き去ら

れていた外、枯れたのも若干。場所は良く選んだつもりだが自然とはこういうもの。頂上尾根で丁度昼時。

午後は西尾根を少し下った山腹で整備範囲を広げる。ここは「44林班い」の最北部に近い緩傾斜地。倒し放しの広葉樹やスギ、ヒノキが散乱している。広葉樹は張った枝の始末が厄介だし、太い針葉樹は玉切り・運搬が難物。奮闘2.5時間、何とか「片付けた」つもり。「44林班に」の前回整備済みのエリアも仕上げを行う。

【参加者】 石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 杉本佳彦
武田壽夫 中村賢三 体験参加2名 (計8名)

2017(平成29)年6月18日(日) 9:30~15:30

天候 曇時々晴 気温(活動地区WL500m付近22℃)

エリア:「44林班ろ」

内 容: 間・除伐後放置林の林床整備、並びに里道整備
伝達2件 ①15日(木)JAC関西支部「ゆるやか山行」一
行の森林観察を受入れ ②事業採択の内示あり。

今日の作業は「44林班ろ」の東側の尾根で「44林班は-02」から西へ廻りこんだ一带とそこへの里道整備。尾根の東下方は小水源、西の谷は主水源で間伐・除伐のあとがそのまま放置されている。また、里道は狭く路肩が弱い箇所が多い。ただ、開けて明るい場所ではある。

里道整備に2人、残る11名は3班に別れて尾根の中央

と左右、各々幅20m程の区画を分担する。尾根上までは約50m。傾斜地の玉切りなので棚積み位置までの運搬には相変わらず手こずる。山体の土壌は崩れやすいこともある。また、倒れた広葉樹は枯枝の始末に難儀する。何とか60m×50m=0.3haを綺麗にすることが出来た。

里道の方は折から山に入っておられた本山寺副住職が「カケヤ」を貸して下さり、杭打ちなど大いに捗った模様。危険箇所約50mが仕上げられた。杭などの材料は放置木を利用。

【参加者】 泉家恵子 石原順子 斧田一陽 岡田輝子
小櫃徹夫 薦田佳一 倉谷邦雄 黒山泰弘 後藤和子
武田壽夫 宮本廣 福井誠 山本國夫 (計13名)

2017(平成29)年7月6日(木) 9:30~15:30

天候 晴 気温(活動地区WL400m付近22~23℃)

エリア:「45林班に-01」、「45林班ろ-03」

内 容: 自然林の枯損木と広葉樹の除伐、林床整備、新しいモニタリング円形調査区の設定

- ・モニタリング円形調査区は「45林班に-03」に設定
- ・枯損木除伐や倒木の処理、繁り過ぎた常緑広葉樹の除伐を含め0.1haを整備
- ・箕面森林事務所の江間薫森林官の視察あり

【参加者】 石原順子 斧田一陽 岡田輝子 倉谷邦雄

スケッチ同好会 例会のご案内と報告

第21回 【案内】

日 時 平成30年1月22日(月)
集 合 JR高槻駅中央改札口 午前9時30分
行 先 関西大学高槻キャンパス
申 込 平成30年1月15日迄 薦田佳一
e-mail: komoda-keimasa@giga.ocn.ne.jp
Tel: 072-694-8035

備 考 持ち物などの詳細は後日、参加者に連絡
昼食は学食が利用できます

第22回 【案内】

日 時 平成30年3月26日(月)雨天順延
集 合 近鉄橿原神宮前駅東口改札口
午前9時25分(9時36分発バスに乗り)
行 先 甘樫丘展望台
申 込 平成30年3月19日迄 嶋岡 章
e-mail: shimaoka1935@ybb.ne.jp
Tel&Fax: 072-993-0298

備 考 持ち物などの詳細は後日、参加者に連絡

【報告】 第19回嵐山界隈

日 時 平成29年9月11日(月)

【参加者】 浦上芳啓 岡田輝子 金井良碩 久保和
恵 薦田佳一 嶋岡章 野村哲夫 播戸日出生 松
上美代子 松村文子 森沢義信 (信濃)大塚和子
計12名



嵐山大堰川 画: 播戸日出生

杉本佳英 武田壽夫 宮本廣 茂木完治 山本國夫
(計9名)

2017(平成29)年7月16日(日) 9:30~15:30

天候 晴後曇 気温(WL500m付近27℃)

エリア:「44林班ろ」と活動地への里道

内 容: 林床整備(間伐放置木の処理)と里道整備
・里道整備に2人、残る9名は2班で尾根の左右に整備
地域を拡張
・整備面積は約0.2ha。里道の方は約30mを補修し、さ
らに埋没していた水切り溝1ヶ所を復旧

【参加者】 泉家恵子 石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄
薦田佳一 後藤和子 武田壽夫 中村賢三 宮本廣 福
井誠 山本國夫 (計11名)

2017(平成29)年8月3日(木) 9:30~15:30

天候 晴 気温(WL500m付近25℃)

エリア:「44林班ろ」内のモニタリング調査区周辺並びに
周辺の混交林

内 容: 林床整備と枯損木除伐
・明日の「大阪さとり地域協議会」による活動地視察他
の準備も兼ねて0.1haを整備。

【参加者】 石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 武田壽夫
山本國夫 (計5名)

2017(平成29)年8月4日(金) 9:30~13:00

天候 晴

エリア: モニタリング調査区を中心に活動地一帯

内 容: 大阪さとり地域協議会の視察(山本積氏、渡
辺昌造氏)を案内 整備ぶりに評価を頂く

【参加者】 斧田一陽 倉谷邦雄 (計2名)

2017(平成29)年8月20日(日) 9:30~13:15

天候 晴 気温(12時32℃)

エリア: 45林班に-01(作業小屋南斜面一帯)

内 容: 枯損木除伐と日照を遮る常緑樹の除伐、並びに
林床整備

・繁り過ぎた常緑広葉樹を15~20本除伐
・12時過ぎから約一時間の打ち合わせ(今年度の活動地
と取り組み内容の確認)

【参加者】 泉家恵子 斧田一陽 小櫃徹夫 倉谷邦雄
河野直子 後藤和子 薦田佳一 杉本佳英 武田壽夫
中村賢三 宮本廣 山本國夫 (計12名)

2017(平成29)年9月7日(木) 9:30~15:30

天候 曇後雨後曇 気温(12時22℃)

エリア:「44林班ろ」並びに「45林班に-01」に近接する自
然歩道

内 容: 林床整備、ナラ枯れ対策、自然歩道整備(降雨
の為、午後は小屋付近に移動)

・林床整備(幅20m、延長50m)、ナラ枯れ対策(6本に
対策)、自然歩道は約15mの路肩補強

【参加者】 石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 武田壽夫
山本國夫 (計5名)

2017(平成29)年9月24日(日) 9:30~15:30

(定例作業日台風18号列島縦断予報により延期)

天候 晴 気温(12時25℃)

エリア:「44林班ろ」

内 容: 林床整備、枯損木除伐

・林床整備は約0.2ha

【参加者】 倉谷邦雄 後藤和子 杉本佳英 武田壽夫
宮本廣 (午後)斧田一陽 (計6名)

■□■ 自己紹介 (皆さんよろしく)

中山勝也(会員番号16159)

3月入会、神戸在住の中山勝也(74歳)です。学生のころ体が弱く、健康のためサイクリングなどやっていましたが、会社に入り山岳部やロックガーデンクラブに入ってから山登りをするようになってから次第にのめりこむようになって、体も丈夫になって春夏秋冬を山登りで過ごすようになりました。

若いうちは、ひと通りのことをやってきましたが、50

才台になってからは岩登りなど次第に遠のいて、話題になっていた百名山登りをやってみようと思いました。すでに半分以上は登っていたので、その続きを始めると、すぐに終わってしまい、勢い二百名山、三百名山と進むも登り切って、今は各地の百名山や全国の隠れ名山を地図などで探して登るのを楽しみにしています。

季節やルートを変えて同じ山を深く楽しむのもよいですが、私は次々と未知の山をめぐるほうが好きなので、あちこちを登り歩いているうちに、利尻島から石垣島ま

で2500山近くも登ってしまいました。登るほどに、登りたい山が増えてくるのが不思議でなりません。

そんな訳で、どうしても一人で山に出かけることが多く、苦勞して登った山の感動をだれにも語り掛けられない物足りなさもありました。

この度はお誘いを頂き入会させていただくことになりましたので、新たな山友を得て共に楽しめる山行をながく続けてゆきたいとおもっています。高齢の新人ですがよろしく願いいたします。

(なかやま・かつや 2017/07/28受)

アルプスの山々に魅せられて

関戸京子(会員番号15357)

今年の夏、憧れ続けてきたマッターホルンに挑戦しました。不順な天候によりソルベイ小屋から引き返さざるを得ませんでした。白々と明けてくる周囲の山々やツェルマットの街が黒く浮かび上がり、はるか下に広がってゆくさまは感動的でした。必死で4000mを超える高さまで登ってきた実感がありました。朝日を受けて黄金に輝くマッターホルンの頂上を間近に見上げ、“あそこに立ちたい”との思いがいっそう募りました。

小さいころには父に連れられて近くの里山によく登りましたが、大人になってからは、ハイキングやアウトドアなどとは無縁の生活でした。20年程前にスイスのツェ

ルマットを旅行し、ハイキングコースを歩いたときにリッフェルゼーの湖面に鮮やかに映っていた、逆さマッターホルンの美しさに魅せられ、この山に登りたいと思いました。

ハイキングから山登りへと大きく転換したのは、その後グラン・パラディーズに登ってからです。頂上に苦勞してたどり着くやいなや視界をさえぎるものがなくなり、周囲の山々が目に飛び込むように広がり、その光景に思わず息をのみました。これまでに感じたことのない感動でした。その翌年、モンブランに登りました。次はマッターホルンに登ろう、しかしこれまでのようなハイキングの延長で登られる山でないことは知っていました。ちょうどその頃、仕事でお世話になっていた井関正裕さんから日本山岳会の存在と関西支部の登山教室を教えてください、そこへの参加から平成25年6月JAC入会へと繋がりました。

登山教室や支部山行で知り合いになれた先輩方の助言や体験は、とても貴重です。私よりかなり年上であるにもかかわらず、地図とコンパスだけでルートを見つけ、とても付いていけないスピードで山頂をめざして登っていく様子を見て、幾つになっても山に挑戦することは可能であることを確信しました。

(せきど・きょうこ 2017/09/20受)

秦 康夫さんを偲んで

斧田一陽

関西支部の自然保護活動を一緒に取り組んできた秦康夫さんが、今年7月27日に81歳で逝去されました。山での元気なお姿が脳裏から離れません。

秦さんは、新ハイキングクラブ関西で一緒に山行されていた中島隆さんの紹介で2006(平成18)年に日本山岳会に入会(会員番号14315)されました。支部の活動には積極的に参加され、特に自然保護活動には関心が高く、茨木市制定自然歩道の巡視保全、東お多福山ススキ草原復元、本山寺山森林づくり活動など都合のつく活動日には殆ど参加されていました。

日本山岳会の森づくり協議会が、岐阜支部の権現山で開催された時には一緒に参加しましたが、切り開かれたばかりの山道を足早に登られていたことが思い出されます。東お多福山の活動では、登山道調査を支部が担当す

ることになり、50メートル巻尺持参で3コース全てを測りました。本山寺森林づくりでは、活動当初からのメンバーとして、森林調査から始まり森林巡視、林床整備や除伐、植樹にと精を出されました。後期高齢者の域に達せられた頃から、登りはきつい様子でしたが、下りはトレーニングになると車を利用せずにスタスタと駆け下っただけになりました。活動の写真撮影や報告書の作成も担当していただいていたのですが、今年1月10日に頂いた1月5日の報告が最後になりました。1月13日発信した16日の京都大阪森林管理事務所訪問の連絡は、秦さんには届かない手紙となりました。

古くから活動されていた京都北山グループの1月11日伏見・稲荷山例会では体調が思わしくなく、参加されたものの山には登らず待っておられ、下山後の反省会にはお酒好きな秦さんらしく出席されたそうです。帰宅後、体調が悪化し、ご家族ともお話しが出来ない状態で入院療養されていましたが、残念ながら旅立たれました。

10月9日に秦さんの自宅近くの船岡山で京都北山クラブによるお別れ会があるとの情報があり、支部の数名の方々と参加させてもらいました。霊峰比叡山を正面に見

ながら、お別れの歌を合唱して惜別の会を終えました。委員として活躍された秦さん、安らかにお眠りください。合掌

日本の山岳画 山書にもふれて(その3)

嶋岡 章

4. 戦後の山岳画集

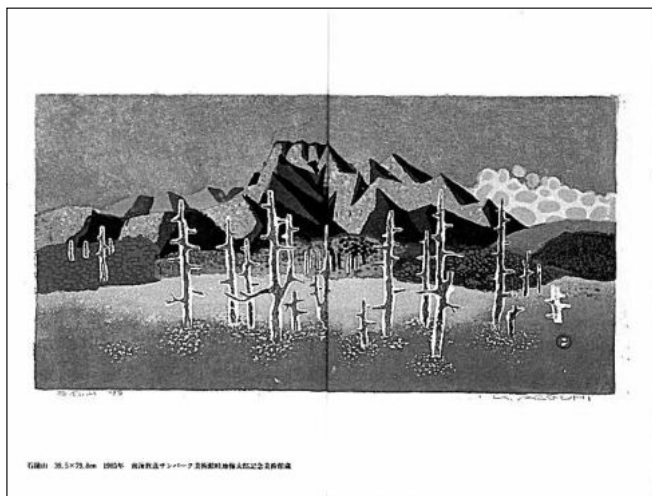
戦後、1950(昭25)年フランス隊がアンナプルナ初登頂に成功し、1953(昭28)年にはイギリス隊がエベレストを初登頂した。また1956(昭31)年に日本山岳会隊がマナスルの初登頂、ついで1958(昭33)年に京大学士山岳会隊がチョゴリザを初登頂し、1950年代は山岳ブームに沸いた。この頃から山の本も数多く出版されるようになり、1950(昭25)年には足立源一郎の『山に描く』が再刊され、山岳画集もぼちぼち出まわりはじめた。

(1) 畦地梅太郎(1902~1999)

つぎに畦地梅太郎の画文集『山の絵本』(日本愛書会1955)が登場する。

畦地梅太郎は当初油彩画を志していたが24歳ころから版画の道にはいり、1937(昭12)年軽井沢へ出かけ浅間山に魅せられ山の風景を描きはじめる。戦後は独特の「山男」シリーズを発表して評判となる。画文集に掲載されている作品は版画もあるが、筆書きのカットが主体で、じつに味があり、文章もユーモラス且つ巧みである。

彼の画文集は『山の眼玉』(朋文堂 1957)、『山の足あと』(創文社 1960)、『山の出べそ』(創文社 1966)、『せつなさの山』(創文社 1969)、『北と南の話』(創文社 1972)、『山のえくぼ』(創文社 1975)などたくさんある。第12図は



第12図

『山の眼玉』の口絵のひとつで版画「石鎚山」である。

なお、彼の死後、平凡社「別冊太陽」特集版として『山の版画家畦地梅太郎』(2003)が刊行されている。山岳画

家で、平凡社「別冊太陽」の特集が組まれたのは畦地梅太郎だけである。

また、現在、山岳雑誌『岳人』の表紙に畦地梅太郎の版画が使われている。

(2) 生沢 朗(1906~1984)

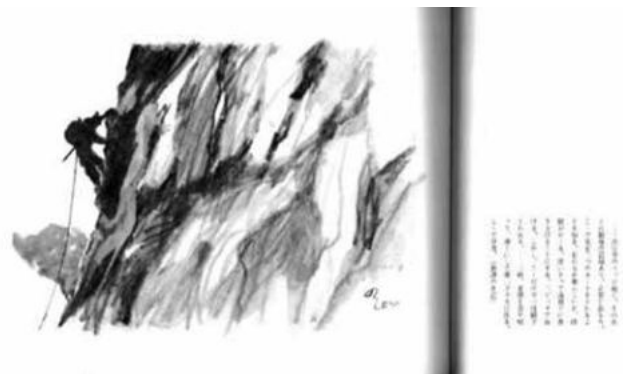
1956(昭31)年2月24日から翌年8月22日まで朝日新聞に連載された井上靖の新聞小説『氷壁』が評判になった。これは、前穂高岳東壁で遭難した「ナイロンザイル事件」と槍ヶ岳北鎌尾根で遭難した松涛明の遺書『風雪のビバーク』をモデルとした山岳小説である。この新聞小説の挿絵を描いたのが生沢朗であり、これがすばらしく小説とともに大いに評価された。連載がおわってすぐ小説とともに挿絵画集『氷壁画集』(朋文社 1957 第13図)が刊行された。



第13図

新聞小説の挿絵が画集として刊行されたのは、前出・石井鶴三の時代小説の挿絵画集に次ぎ二人目のことで、二人とも山岳画家というのは偶然だろうがおもしろい現象だ。第14図はそのなかの挿絵のひとつで、新聞小説の挿絵に登攀場面が登場するのは画期的なことだった。

生沢朗は、のちにヒマラヤやシルクロードにもでかけ、スケッチ集を著している。



第14図

『ヒマラヤとシルクロード』（講談社 1973）は、すばらしいスケッチ集で当時8,700円もする豪華本だった。今なら10万円ちかくするだろうが、筆者は清水の舞台から飛びおりたつもりで購入した。これには、肉筆画「十一面観音像」が付いていて筆者のお宝になっている。

なお生沢朗は『氷壁画集』を出した後しばらく『山と溪谷』誌の表紙を描いていた。

(3) 上田哲農(1911~1970)

『氷壁画集』が出た翌年、上田哲農の画文集『日翳の山ひなたの山』（朋文堂 1958）が登場する。

上田哲農の画文集は、加藤泰三の『霧の山稜』によく似たスタイルと画風である。「ある登攀」（第15図）は、

後輩たちが白馬岳主稜を登っていくのを山頂から見下ろして、成功してほしい反面、「白馬の主稜なんかチヨロイ」といわれるの



第15図

が何より恐ろしかったのだそう。ちなみにぼくは「どうだね、白馬の主稜はそう簡単にはいくまい」と誇りたかったのである」と述懐して「その心境よくわかる」と激しく頷いてしまった。なお筆者は、このシチュエーションとは逆のことを経験している。先輩たちが白馬岳主稜をアタックしたとき筆者はサポート隊で山頂から先輩たちが攀じてくるのを見下ろしていたのだ。そして後年、自分自身が主稜を登ったとき、先輩たちとおなじ心境を味わったのだった。

その後、画文集『山とある日』（三笠書房 1969）をだしている。死後に、『上田哲農の山』（山と溪谷社 1974）、『きのうの山きょうの山』（中央公論社 1980）が遺稿集として刊行されている。

(4) 山川勇一郎(1909~1965)

昭和20年代から30年代は外貨の持ち出しが制限されていて、日本政府から許可が出なければ海外登山はできなかった。当然ながら、高山の初登頂や未開地の学術探検といった大きな目標をかかげた大学や日本山岳会など、大組織からの働きかけがなければ政府を動かすことは不可能だった。それを、作家の深田久弥、山岳画家の山川

勇一郎、山岳写真家の風見武秀、医師の古原和美の4人は1958(昭和33)年、ジュガール・ヒマールとランタン・ヒマールの遠征を成し遂げたのである。深田久弥が東大閥のツテなどを活かして政治家やお役人を動かしたのである。個人グループの海外登山が許可されたのははじめての快挙だった。この遠征については、深田久弥、風見武秀著『氷河への旅』（朋文堂 1959）にくわしい。山川勇一郎はこの遠征中に主としてフェルト・ペンで描いたスケッチを集めた『ヒマラヤ画集』（山と溪谷社 1959）を出している。スケッチに淡彩をほどこしたのや油彩画もあってすばらしい。



30, 31. Grevasser
Whenever we encountered to halt and search along the suitable crossing point. At a of a metre or more in width. Normally we would have just on either edge made it too Kasam's alloy ladder, which walked across. Nine days in width and again we had to this time, as the ladder was across it on all four compli of the action.

第16図

1965（昭和40）年、大阪・岳友クラブの中央アンデス登山隊に帯同し、ロンバルデス地区のクレバスに落ちて凍死している。所収の「氷河のクレバス」

（図16）は、まるでそれを暗示しているかのようだ。享年56歳。

(5) 辻まこと(1913~1975)

1960年代にはいって、辻まことが登場する。

第17図は『山からの絵本』（創文社 1966）の表紙である。富士山の北麓「西湖」の畔に友人たちと共同で使用しているツブラ山荘での一コマである。辻まことは、この山荘がお気に入り、しばしばここに逃避行している。辻まことの絵は清透な山の空気を描き、山屋の心の琴線にふれるような暖かさに満ちている。



第17図

こんな絵を描く辻まことという人は、なんの屈託もないと思われるかもしれないが、辻まことには壮絶な過去が秘められている。父はダダイストの辻潤、母は婦人解放運動家の伊藤野枝である。母の伊藤野枝はのちに辻潤のもとを去り、アナキストの大杉栄に走り、二人は投獄され甘粕憲兵大尉に扼殺されている。これが世に名高い「甘粕事件」である。父の辻潤も伊藤野枝が去ってか

ら女性関係がルーズで、作家・林芙美子とも関係をもっている。その後、辻まことは、父・辻潤と二人でパリを放浪したりしている。

そういった壮絶な過去を背負った辻まことが世に出たのは、草野心平の主宰する同人誌『歷程』に「虫類図譜」を掲載したのが最初である。これは世の中に巢食うあらゆる概念、たとえば愛国心、体面、教育などを、時にはグロテスク、時にはユーモラスな虫の姿として表現し、その絵に鋭く的確な文章を付したもので、これは、あきらかに父親の影響を受けた作品だといえる。

辻まことが山の絵の世界に登場したのは、詩人で登山家の串田孫一が編集していた抒情的山岳雑誌『アルプ』に絵を提供してからである。そして冒頭の画文集『山からの絵本』でデビューして人気を博するようになる。辻まことはハンサムでギターの弾き語りがうまく、スキーと絵が得意なので女性ファンが多く、父に似たのか、かなりの艶福家でもあった。

なお、辻まことの生涯を描いた西木正明著『夢幻の山旅』（中央公論社 1994）は、第14回新田次郎賞を受賞している。

(6) 熊谷 榎(1929～)

熊谷榎は熊谷守一画伯の次女で、山スキーの大好きな



第18図

女傑である。彼女の画にはじめてお目にかかったのは、『アトリエ』No.567(1974年5月号)である。このなかにエベレスト街道をトレッキングしたときのスケッチ集「ヒマラヤ・トレッキング」が掲載されている。フェルト・ペンによるスケッチが多いなか、油彩画もすばらしい。

その後、熊谷榎は、おおくの画文集をだしている。第18図は、そのひとつ、『山々を滑る登る』（白山書房 2012）の表紙である。
(つづく)

受贈一覧

(2017.8.1～2017.10.31受理分)

山岳おおさか No.214 大阪府山岳連盟

山嶽寮：甲南山岳会通信 第72号

創立三十周年記念誌 日本山岳会京

都・滋賀支部
 登山月報 第580, 581, 582, 583号
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 兵庫山岳 第602, 603, 604号 兵庫県
 山岳連盟
 日本山岳会支部報
 ・[東京]たま通信 第29号

・富山支部会報 No.106
 ・信濃支部報 第64号
 ・岐阜山岳 第82号
 ・[京都・滋賀]支部だより No.128
 ・JAC Hiroshima 第65号
 ・JAC北九だより 第82号
 ・宮崎支部報 第61,62号

2018年1月～3月 支部山行計画

※申込みは、最後尾の宛先に行ってください【いずれも締切厳守】

登山計画書(届)の提出を！

事故・遭難対策として以下の山行を行う場合、事前に登山計画書(届)を提出してください。

- ・他支部実施の山行
- ・所属山岳会および個人の宿泊を伴う山行
 (旅行者のツアーを除く)

提出先：山行委員長(黒田記代)kuroda2822@kcn.jp

※各警察等へは別途提出してください。

17-41 陽だまり山行

「養久山丘陵歩き」

日 時：1月6日(土)

集 合：JR竜野駅前 9時半(大阪駅8:00発播州赤穂行新快速乗車9:26竜野駅着)

コース：竜野駅～本條登山口～養久1号古墳～養久山～乙城址～野田焼古窯址～日吉神社～因念寺山門～永富家～竜野駅

地 図：2万5千分の1「龍野」

備 考：竜野駅北部の古墳群・神社等をのんびり散策江戸時代後期に建てられた豪農の住宅「永富家」は、「鹿島建設」中興の祖・鹿島守之助の生家(入館料300円)

申込み：12月24日迄(担当：山内幸子)

17-42 しっかり歩こう

「鞍馬尾根から貴船山」

日 時：1月8日(月)

集 合：叡山電鉄鞍馬駅 9時

コース：鞍馬駅～葉王坂～△525.2～扶桑橋～鞍馬尾根・鞍馬山往復～奥貴船橋～滝谷峠～貴船山～二ノ瀬駅

地 図：2万5千分の1「周山」「大原」

備 考：地図を見ながら約18kmを6時間程度で歩く

少雨決行

申込み：12月30日迄(担当：山内幸子)

17-43 4000山グランプリ

「須留ヶ峰1053.5m」

日 時：1月13日(土)・14日(日)

コース：生野駅～餅耕地～大杉山～須留ヶ峰～餅耕地～生野駅

備 考：詳しくは担当者に問い合わせして下さい

難易度の高い山 テント山行 一般参加可
 山岳保険加入が必須

申込み：1月6日迄(担当：重廣恒夫)

17-44 ゆるやか山行

「須磨アルプス」

日 時：1月18日(木)

集 合：山陽電鉄須磨浦公園駅改札口前 10時

コース：須磨浦公園駅～旗振山～高倉台団地～横尾山～東山～板宿八幡神社～板宿駅

(約7.5km 3時間30分)

地形図：2万5千分の1「神戸南部」「須磨」

申込み：1月11日迄(担当：久保和恵)

17-45 比良山系を歩く

「蛇谷ヶ峰901.7m」

日 時：1月20日(土)

集 合：JR近江高島駅前バス停 9時

コース：畑バス停～ボボフダ峠～滝谷の頭～蛇谷が峰～富坂尾根分岐～玉津島神社～富坂口バス停

(約8km 6時間30分)

地形図：2万5千分の1「北小松」

備 考：積雪の状況によりコース変更あり

申込み：1月13日迄(担当：久保和恵)

17-46 関西支部県境縦走57

日 時：1月27日(土)・28日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります

HP等で確認してください

備考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：1月19日迄(担当：黒田記代)

17-47 4000山グランプリ

「妙見山1139m・蘇武岳1074.4m」

日時：2月10日(土)・11日(日)

コース：八鹿駅～石原～大ナル登山口～妙見山～妙見
峠～蘇武岳～江原駅

備考：詳しくは担当者に問い合わせして下さい

難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：2月3日迄(担当：重廣恒夫)

17-48 ゆるやか山行

「雨山・奥山」

日時：2月15日(木)

集合：南海本線泉佐野駅改札口前 9時

コース：泉佐野駅(バス)土丸バス停～雨山～小屋谷山
～雨山奥山自然公園～永楽ダム～東ハイキン
グコース展望台～車道出合～大阪体育大学前
(バス)JR熊取駅または南海泉佐野駅

(約9km 4時間30分)

地図：2万5千分の1「内畑」「樽井」

申込み：2月15日迄(担当：久保和恵)

17-49 スキーイベント

「ハチ北スキー場」

日時：2月20日(火)・21日(水) 1泊2日

備考：神姫バスツアーズ利用

費用(バス代・宿泊・リフト券付)約2万～
2.5万円

詳細は申込者に連絡します

申込み：1月31日迄(担当：小黑節郎)

17-50 関西支部県境縦走58

日時：2月24日(土)・25日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります

HP等で確認してください

備考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：2月16日迄(担当：黒田記代)

17-51 レスキュー講座

「赤十字救急法短期講習(応急手当)」

日時：3月3日(土) 13:30～16:30(受付13:00～)

講師：日本赤十字社の派遣指導員

会場：弁天町ORC200生涯学習センター(和室)

費用：500円(講師費用・会場費を参加者で分担)

備考：募集20名

急病の手当、けがの手当て、毒虫・ハチに刺
された、蛇にかまれた等 山中での実用的な
応急処置を学びます

申込み：2月23日迄(担当：黒田記代)

17-52 4000山グランプリ

「鉢伏山1221.1m・瀨川山1039.2m」

日時：3月10日(土)・11日(日)

コース：八鹿駅～鉢伏バス停～高丸山～鉢伏山～瀨川
山～八鹿駅

備考：詳しくは担当者に問い合わせして下さい

難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：3月3日迄(担当：重廣恒夫)

17-53 しっかり歩こう

「熊山から論山」

日時：3月17日(土)

集合：JR山陽本線熊山駅 10時10分(大阪発8:00
新快速播州赤穂行乗車 相生乗換 10:10着)

コース：熊山駅～熊山～烏泊山～論山～和気駅

地図：2万5千分の1「万富」「和気」

備考：少雨決行

地図を見ながら約18kmを6時間程度で歩く

申込み：3月9日迄(担当：山内幸子)

17-54 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く5

「清滝川・菩提道コース」

日時：3月22日(木)

集合：阪急嵐山駅改札口前 8時半

コース：嵐山駅～渡月橋～鳥居本～落合橋～梶尾～坂
尻～鷹峯源光庵前バス停

(約15km 約6時間)

地図：2万5千分の1「京都西北部」

備考：中止山行(17-30;10月19日)の延期分

申込み：3月15日迄(担当：久保和恵)

17-55 関西支部県境縦走59

日時：3月24日(土)・25日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります

HP等で確認してください

備考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：3月16日迄(担当：黒田記代)

各山行は

担当委員もしくは支部宛にお申し込みください

e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

3rdステップ

初級 『地図とコンパスの使い方の習熟』

- 1月20日(土) ツツジ尾谷～金剛山～伏見峠～久留野峠～ロープウェイ前
- 2月17日(土) みつえ青少年旅行村～三峰山～三峰峠～みつえ青少年旅行村
- 3月17日(土) 道場駅～百丈岩～静ヶ池～鎌倉峡出会～平田配水場～道場駅

中級 『六甲・沢歩き』

- 1月11日(木) 白石谷～六甲最高峰
 - 2月8日(木) 西滝ヶ谷～極楽茶屋跡
 - 3月8日(木) 西山谷～水晶山
- 上級 『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』
- 1月18日(木) 比良山・蓬莱山
 - 2月22日(木) 比良山・堂満岳
 - 3月22日(木) 比良山・蓬莱山

2018年 1月～3月 自然保護行事案内

1 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づくりの会活動)

- 活動日：1月4日(木)・1月21日(日)
 2月1日(木)・2月18日(日)
 3月1日(木)・3月18日(日)
- 枯損木除伐・林床整備・常緑樹除伐・作業道整備など
 ※集合：JR高槻駅北口アルプラザ前 午前8時50分
 ※体験作業参加・本山寺山森林づくりの会入会 歓迎

2 東お多福山ススキ草原復元活動

- ・公開シンポジウム
- 会 場 兵庫県立のじぎく会館大ホール
 日 時 2月17日(土) 13:00～16:30
 内 容 都市近郊の半自然草原の価値を問うー生物多様

性を未来に継承する民官産学の協働のあり方
 東お多福山草原の保全・再生活動10年の効果の検証他3事例の報告
 パネルディスカッションー東お多福山差押弦を150年後に残すために民官産学ができること

3 自然観察会

本山寺山の森活動日に、希望者に森林観察会を実施

問い合わせ・申込み先
 斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556／携帯 090-4037-4542
 ※締め切り：開催日の一週間前まで



〈編集後記〉

☆気が付けば早いもので、もう2017年が暮れようとしています。昨年、ナンガマリ遠征から帰国して、あっという間に1年が経ってしまいました。その一年の間に、参加メンバーをとりまく状況やそれぞれの登山活動での出来事など、さまざまな変化がありました。1年と言うのはそれほどまでに短くて長いようです。遠征後の仕事で積み残しがまだあり、反省仕切りです。鋭意、努力いたしますので今しばらくお待ちを。(加藤)

発行日 2017(平成29)年12月10日
 発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階 304号室
 公益社団法人日本山岳会関西支部
 e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
 郵便振替口座 00930-6-55950
 発行者 金井良碩
 編集 加藤芳樹 久保和恵 野口恒雄
 制作 株式会社 双陽社 大阪市北区堂島2-2-28





**すぐに使える！
簡単に扱える！**



**簡易アイゼン(10本爪)
トレイルクランポンプロ**

¥9,800+税

サイズ:25～30cm対応、667g(ペア)



ツマミを引くだけ！
簡単着脱!!

しっかり止まる！
鋭い10本爪!!

お問い合わせ先:(株)ケンコー社 TEL:06-6374-2788

山岳雑誌 岳人

山と人、時代をつなぐ山岳雑誌「岳人」

1月号
発売中

【特集】冬の八ヶ岳

★メンバーのウェブサイト、全国のメンバーストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

▶年間購読がおすすすめ 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

通常価格
12冊 9,780円 (+税)

年間購読
12冊 8,965円 (+税)

1年間で、1冊分
815円おトク!



年間購読お申し込み方法 WEB <http://www.gakujin.jp> モンベルポスト ☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
*フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。 モンベルストアでも受付中

〒606-8161
京都市左京区二乗寺木ノ本町15

ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111
FAX 075-723-0095

表示は本体価格です。



「登山は文化です」 山の本をつくる

A5判 228頁
2,800円

「山が好き、本が好き」で50年、京都北山からヒマラヤ、アルプスまで、百冊以上の山書を出版した著者が、山の本へのこだわりと山を書く人たちの交流をふりかえる。

「登山は文化です」 小社会長 中西健夫(8月17日没) 著



森の巨人たち

A5判 176頁
カラー写真多数
1,800円

圧倒されるような森の巨樹の様々なフォルム。近畿とその周辺の山々で、そんな巨人の人格を見るような、個性と生命力に溢れた「森の主」と向かい合った悦びと魅力を語る。

巨樹と出会うー近畿とその周辺の山 草川啓三 著



京都府山岳総覧

A5判 272頁
口絵カラーほか
写真・地図多数
2,200円

京都府の339の山を实地踏査して、登路を含めて解説。主な山には概念図・写真を加えた、京都の山の最も詳しい案内書。カラー口絵写真、標高100m以上全三角点を掲載。

京都府339山案内 内田嘉弘・竹内康之 編著



大阪の山歩き100

A5判 184頁
オールカラー
写真・地図多数
1,800円

大阪の山々はそれぞれに歴史があり、個性に富んでいる。バスや電車を利用して家族づれで登れるコースばかり、一〇〇山、一〇〇コースを選んだウォーキングガイド。

街中から気軽に楽しむ山歩きガイド 清水 満 著

【山旅専門の旅行会社】アルパインツアーからのご案内

アンコール遺跡群ハイキングと 天空の寺院プレア・ヴィヘア 7日間

出発日～帰着日	旅行代金(大阪発着)
1/21(日)～1/27(土)	¥252,000
2/4(日)～2/10(土)	¥252,000
3/18(日)～3/24(土)	¥252,000

カンボジアの至宝アンコール遺跡群をたっぴりと歩いて探訪します。人気のプレア・ヴィヘアも訪れます。



▲世界三大仏教遺跡の一つアンコール・ワット

世界遺産ティオティワカン遺跡と トルーカ山(4,620m)登頂 6日間

出発日～帰着日	旅行代金(東京発着)
2/9(金)～2/14(水)	¥298,000

コンパクトな日程でメキシコの第4の高峰トルーカ山の登頂を目指します。また世界遺産ティオティワカン遺跡やグアダルペ寺院を訪れる特別企画です。



▲トルーカ山の稜線を歩く



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 © 邦コンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003
大阪市西区京町堀1-4-3(TCF肥後橋ビル2階)